

<問い合わせ状況 2024年7月>



📌 院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。7月の疑義照会は8件で、内容は以下の通りでした。



- 残薬調整 (3件)
- その他 (5件)
 - ・入荷困難薬からの変更 (2件)
 - ・処方箋の期限切れ

・・・など



📌 薬に関する問い合わせ(患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

7月はお問い合わせが2件ありました。

- 腎機能が低下している患者へセフトリアキソンを使用する場合の注意点などは？
- 強力ネオミノファーゲン[®]C、プレドニン[®]、ポララミン[®]の注射は混注可能か？

📌 薬に関する問い合わせ(院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してあるDI室への問い合わせは、7月は6件でした(病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎がついたものについては回答をDIニュースNo.462に記載しています。

- ◎ヴィアレブ[®]皮下注のカニューレを留置したままMR I検査は可能か？
- オンジェンティス[®]錠は簡易懸濁可能か？ → 可
- カンジダに効果のある塗り薬は？ → ラノコナゾール、フロリード[®]など
- ◎テリボン[®]オートインジェクターを途中で中止していたが、残り数回を投与する意義があるか？
- ヴェノグロブリン IHは5%と10%があるが、どちらも同じ初回投与速度である理由は？
→10%製剤を発売する際、既に発売されていた5%と同じ開始速度で試験を行い問題が生じなかった。
これに対し、5%の再試験を行わなかったため。
- ◎ヴェノグロブリン IHは投与速度を上げることが出来るが、その具体的な方法は？

